

2015年度

# 第21回 FDフォーラム

# 大学教育を 再考する

～イマドキから見えるカタチ～

2016年

3月5日(土)・6日(日)

京都外国語大学

1日目 森田記念講堂  
2日目 1号館

主催：



公益 大学コンソーシアム京都  
財団 法人 The Consortium of Universities in Kyoto

後援：文部科学省・京都府・京都市

# 大学教育を再考する ~イマドキから見えるカタチ~

少子化・ユニバーサル化に伴う学習履歴の多様化や厳しい大学経営の問題(入口)、グローバル化・情報化に伴う雇用環境の変化(出口)に挟まれ、大学教育の在り方は激しく問われ、質的転換が求められている。第三者評価、FD義務化、教育情報の公表、競争原理に基づく財政支援、矢継ぎ早に出される答申から溢れる様々な質保証手段と、政策的にもプレッシャーが課せられている。

これらの対応に忙殺される中、改めて大学教育の在り方を考えてみたい。学生はどのように学び成長しているのか(学生論)、教育は地域・社会との関係の中でどのように展開していくことが考えられるのか(教育論・学問論)、大学(組織)はどのように学生の学びと成長、幸福の実現に寄与していくことが考えられるのか(組織論・職員論)。国公私立、管理職・教員・職員、大学内外と立場の異なる4者の報告を交えて、大学教育の在り方について参加者全員で考え、共有する場としたい。

## ●シンポジスト



**山本 繁氏** NPO法人NEWVERY 理事長/日本中退予防研究所 所長

### ●経歴

2002年 慶應義塾大学卒業と同時にアート教育NPO「コトバナトリエ」設立(2009年に現「NEWVERY」に改称)  
2009年 日本中退予防研究所設立  
2012年 高校生の進路発見プログラム「WEEKDAY CAMPUS VISIT」運営開始(現在、約40大学が導入)  
2014年 リベラルアーツ寮「チェルシーハウス国分寺」運営開始

### ●主な活動

文部科学省高等教育局専門調査員、中央教育審議会高大接続特別部会臨時委員、大学教育再生加速プログラム委員、広島県の教育を考える懇談会(広島県教育委員会)委員、追手門学院大学・大学教育再生加速プログラム(入試改革・高大接続)外部評価委員、京都光華女子大学EMIR部アドバイザー、京都造形芸術大学アドバイザー、東京スポーツ・レクリエーション専門学校アドバイザー、学校法人滋慶学園EASTグループ顧問など歴任。



**杉岡 秀紀氏** 京都府立大学 地域連携センター副センター長/公共政策学部 講師

### ●経歴

2009年 同志社大学大学院総合政策科学研究科博士後期課程退学  
まちづくりNPOきょうたなべ倶楽部発起人代表、内閣官房行政改革推進本務事務局(参事官付)、同志社大学政策学部嘱託講師、一般財団法人地域公共人材開発機構事務局総括を経て、2012年より現職

### ●専門領域

地域政策、地域公共人材論、大学まちづくり論、NPO論、大学評価論

### ●主な活動、著書

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」ペーパーレフェリー、一般財団法人地域公共人材開発機構常任理事、NPO法人グローバル人材開発センター理事、きょうたなべ倶楽部アドバイザー、京都丹波・写ガール隊顧問。  
「地域公共人材をつくる」共著、法律文化社(2013)  
「地方自治を問いなおす」共著、法律文化社(2014)  
「もう一つの自治体行革」編著、公人の友社(2014)  
「持続可能な地域実現と大学の役割」共著、日本評論社(2014)  
「地域力再生とプロボノ」編著、公人の友社(2015)



**池田 輝政氏** 追手門学院大学 学長補佐/アサーティブ研究センター長/基盤教育機構 教授

### ●経歴

1978年 九州大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学  
九州大学助手、大学入試センター助手、大学入試センター助教授、大学入試センター教授、メディア教育開発センター教授、名古屋大学教授、名城大学教授を経て、2015年より現職

### ●専門領域

高等教育経営、教育学

### ●主な活動、著書

戦略論・組織論・人材育成論・教育学の理論を足場にして、大学の経営と教育・学習にかかわる具体的な組織的解決策を提案・実践する活動に取り組む。  
「学位授与方針から逆向き設計するカリキュラム・マッピングの提案と実践」大学・学校づくり研究科紀要、第6号(2014)  
「授業研究のためのアクション・リサーチ法」名城大学年報、第8号(2014)  
「学校改革の戦略経営に関する方法論モデル」愛知学院大学教養学部紀要、第59巻第2号(2011)



**大島 英穂氏** 立命館大学 国際部 事務部長

### ●経歴

1980年 立命館大学卒業  
同年学校法人立命館入職後、研究部、教学部等を経て、2013年より現職

### ●主な活動、著書

大学行政管理学会会長(2009~2011)。  
大学コンソーシアム京都SD研修委員長。  
「多文化環境の大学」共著、明石書店(2003)  
「職員力向上のための個と組織の課題」私学経営No.444(2012)  
「教職協働による大学運営—職員の役割を中心に—」立命館高等教育研究第14号(2014)

## ●コーディネーター



**山田 剛史氏** 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授

### ●経歴

2005年 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程修了(博士(学術))  
京都大学高等教育研究開発推進センター教務補佐員、島根大学教育開発センター講師、副センター長、准教授、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授、副室長を経て、2015年より現職。

### ●専門領域

高等教育研究・開発、青年心理学

### ●主な活動、著書

高等教育質保証学会評議員、大学教育学会代議員。  
島根大学優良教育実践表彰受賞(2009)。  
大学生の学びと成長を促す教育・学習環境のデザインと評価をテーマに研究・開発・実践を行っている。  
「新・青年心理学ハンドブック」共著、福村出版(2014)  
「学生と楽しむ大学教育」共著、ナカニシヤ出版(2013)  
「大学のIR Q&A」共著、玉川大学出版部(2013)  
「生成する大学教育学」共著、ナカニシヤ出版(2012) など

## ●スケジュール

	時間	内容	会場
3月5日(土)	12:00~13:00	受付	森田記念講堂
	13:00~17:10	シンポジウム	
	17:30~19:00	情報交換会	12号館リブレ
3月6日(日)	9:00~10:00	受付	1号館
	10:00~12:00	分科会(午前の部)※1)	
	12:00~13:30	休憩 ポスターセッションコアタイム※2)	
	13:30~15:30	分科会(午後の部)※1)	

※1) 申込された分科会以外には参加することはできませんのでご注意ください。午前と午後は同じ分科会への参加となります。

※2) ポスターセッションは2日目の10:00~15:30にポスターを掲出いたします。コアタイムには、発表者がポスター前で参加者からの質問に答えます。

●第1分科会

## 地域貢献アウトキャンパス活動がもたらす学生の成長: その現状と可能性について

大学の外で行なわれている課題解決型学修やボランティア活動(以下、地域貢献アウトキャンパス活動)は、学生にどのような教育効果をもたらしているのでしょうか。そして教職員は、どのようなねらいで授業を立案・運営し、またどのような視点で学生の学びを捉え評価することが出来るのでしょうか。本分科会は、大学の正課授業の枠組における地域貢献アウトキャンパス活動の取組事例、すなわち学部専門教育(ゼミ・研究室活動)の一環としての同活動、およびサービラーニングと呼ばれる市民性を涵養する学びの一環としての同活動、さらには大学の正課外の枠組における同活動にも焦点をあて、それぞれの活動における関係者(立案・運営者である教職員、授業を受けた学生、あるいは活動先の関係者など)からの話題提供と会場全体でのオープンディスカッションを通して、上記課題を考える場としたい。

コーディネーター 佐藤 賢一氏  
京都産業大学 総合生命科学部 教授  
報告者 山口 洋典氏  
立命館大学 共通教育推進機構 准教授  
高橋 あゆみ氏  
立命館大学 サービスラーニングセンター 主事  
大西 辰彦氏  
京都産業大学 経済学部 教授  
小川 俊雄氏  
井手町まづくり協議会 会長  
山崎 智文氏  
京都産業大学 ボランティアセンター コーディネーター

●第2分科会

## 持続可能な初年次教育のあり方をさぐる

初年次教育の重要性は、現在、認識されており、各大学での取り組み事例などが学会等で報告されておりである。一方で、社会が求めるニーズや大学のカリキュラム、学生の気質などが、時代とともに変化の中で、次の段階を模索する必要もある。特に、初年次教育の先発校・先進校も、初期の目的・内容・方法のままを進めることは、形骸化を招きかねない。初年次教育の永年持続させるためには、大枠は定常のままであったとしても、運営の組織や決定のシステム、教育の方法や内容などについては、絶えず変えていく必要があると考えられる。本分科会では、これまでの初年次教育の歴史を振り返り、実際の手法を学ぶ。そして、新たな段階に入ろうとしている中で、さまざまな大学からの実践報告を得ながら、持続可能な初年次教育について、パネラーとの活発な討議を通して、検討をはかりたい。

コーディネーター 澤 達夫氏  
京都文教大学 総合社会学部 准教授  
報告者 山下 泰生氏  
関西国際大学 副学長  
山田 礼子氏  
同志社大学 学習支援・教育開発センター所長/  
社会学部 教授  
山本 啓一氏  
九州国際大学 法学部 教授  
指定討論者 中村 博幸氏  
京都文教大学 臨床心理学部 教授

●第3分科会

## 学ぶきっかけをつかめない学生にどう向き合うか? ～教養教育の挑戦～

本企画では「学ぶきっかけをつかめない学生にどう向き合うか?」という問いに向きあい、学生の「学力の多様化」や「意欲の多様化」という現実に苦悩している教職員を対象とする。通常、FDで取り上げられる事例は、有名大学の優れた教育実践例ばかりである。そこで報告される上位大学の事例は、参考にはなるものの、自大学が置かれた文脈とはかけ離れたところもあり、どこか他人事に聞こえてしまう。学生の多様化が進む大学においては、教職員一人ひとりのレベルでは、基礎学力に不安を抱える学生の学習支援に関心を持っている者も多い。しかし、それが組織的な議論に発展するかというと学内ではなかなか難しいという現状がある。本企画では「コンソーシアムが主催するFD」という特性を活かし、そこに切り込む。登壇者はNHK、予備校、定時制高校など大学着任前に多様な経験を積んでいる教員である。学生との対話を大切にする個性派教員と語り合いませんか。

コーディネーター 児玉 英明氏  
京都二大教養教育研究・推進機構 教育IRセンター  
特任准教授  
報告者 坪井 龍太氏  
東洋英和女学院大学 国際社会学部 准教授  
脇田 哲志氏  
京都光華女子大学短期大学部 学部長  
(元NHKアメリカ総局長)  
井出 明氏  
追手門学院大学 経営学部 准教授

●第4分科会

## 高大接続改革の動向から紐解く学生理解 ～「接続」の意味するもの～

FDのコアは「学生に関心をもつこと」であると信じている。しかし、当たり前であるが、大学教職員は、入学してきた学生の過去をあまりよく知らない。入試という関門をくぐる際に、獲得した点数や面接での印象、あるいは調査書などは把握できるが、どのような勉強をしたのか、入学してから確認することはあっても一人一人のホンネや背景はなかなかわからない。現在、2014年12月の中央教育審議会の「高大接続答申」に基づいて、高校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的な改革のあり方について具体的な議論が進められている。しかし、そもそも「高大接続」の意義はどこにあり、なぜ今この改革は一体的に行われているのだろうか? 今回の分科会では、高大接続に関係する報告者の方々に改革の背景と方向性をご提示いただきながら、参加者の皆様と高大接続のあり方について学び、学生理解を深めるための議論ができればと考えている。

コーディネーター 河原 宣子氏  
京都橋大学 入学部 看護学部 教授  
報告者 小林 浩氏  
リクルート進学総研所長/  
リクルート「カレッジマネジメント」編集長  
大塚 雄作氏  
独立行政法人大学入試センター 副所長  
荒瀬 克己氏  
大谷大学 文学部 教授(元京都市立堀川高等学校長)

◆第5分科会

## 大学における英語・日本語リメディアル教育

大学「全入」時代に入り、多くの大学では高校までの基礎科目の補習が不可欠となっているのが現状である。それに対処すべくほとんどの大学で何らかのリメディアル教育が導入されているが、どのような授業や体制が効果的であり、どのような成果が上がっているのでしょうか。この分科会では、実際に大学の現場で英語と日本語のリメディアル授業を担当している教員から報告をいただき、さらに英語と日本語のリメディアル教育の専門家から現代日本の大学におけるリメディアル教育の現状や可能性について発表していただく。分科会全体のディスカッションにおいては、以下のような問題について議論を深めたい。  
1) リメディアル教育は何を目指しどこまでやるべきなのか。2) リメディアル教育にはどのような授業技術・工夫が必要なのか。3) 現実的にどこまで学生の力を引き出し伸ばすことが可能なのか。なるべく多くの大学のリメディアル教育の実例を共有し、学び合える機会にしたい。

コーディネーター 井上 尚実氏  
大谷大学 文学部 准教授  
報告者 鈴木 政浩氏  
西武文理大学 サービス経営学部 講師  
馬場 真知子氏  
東京農工大学 国際センター 教授  
西尾 浩二氏  
大谷大学 学習支援主任アドバイザー  
太田 路子氏  
大谷大学 学習支援室(日本語表現担当)

◆第6分科会

## 小規模大学が地域で生きるアクティブ・ラーニング

学生が能動的に学修するアクティブ・ラーニングは、多くの大学で取り組まれるようになった。しかし、産学協働のプロジェクト型アクティブ・ラーニングは学生が当事者意識を持って主体的に課題に取り組むことが困難であったり、学内でのグループワークはコミュニケーション力不足によりうまく成立しなかったりと、効果的なアクティブ・ラーニングをすすめるためには乗り越えるべき課題も多い。本分科会では地域密着型の小規模大学の実践に焦点を当て、小規模大学がその地域における存在価値を高めつつ、学生が具体的な地域の課題や人々と出会い向き合う中で学修の質を高めることを考えたい。3大学がそれぞれの特色を地域で活かすアクティブ・ラーニングの実践について報告する。報告を踏まえ、学生が当事者意識を持ち主体的にアクティブ・ラーニングをすすめる効果的・具体的方策について考えたい。その上で、学生が地域で学んだ学修の成果を捉え直し意味づけるための大学の役割について協議する。

コーディネーター 古賀 松香氏  
京都教育大学 教育学部 准教授  
報告者 小山 宏之氏  
京都教育大学 教育学部 准教授  
炭谷 将史氏  
聖泉大学 人間学部 准教授  
滋野 浩教氏  
京都文教大学 地域協働研究教育センター専任研究員

◆第7分科会

## 大学改革とFD ～批判と提言～

高等教育を取り巻く環境が激変し、高等教育自体のあり方が問われるようになって久しい。グローバル化への対応や新しい能力を育むことの必要性が指摘される中で、高等教育に従事する教職員は、日々統廃する新たな課題の解決に追われている。このような状況において、高等教育それ自体の意味や、高等教育機関と社会との関係がどのようなものであるべきか、という原理的な問いは問われることもなく置き去りにされているように思われる。しかし、教育改善を目的とするさまざまな活動は、こうした原理的な問いと切り離して行われた場合、単なるその場しのぎの対策の寄せ集めにすぎなくなってしまうだろう。重要なことは、原理的な問いを問いつけることによって、日々の教育実践を振り返る参照軸を持つことではないだろうか。本分科会では、こうした問題意識のもとで、現在の高等教育が直面する「改革」の諸相について原理的・批判的に考察することを目指す。

コーディネーター 坂本 尚志氏  
京都薬科大学 一般教育分野 准教授  
報告者 渡邊 浩一氏  
大阪工業大学 非常勤講師  
宮野 公樹氏  
京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授  
藤田 尚志氏  
九州産業大学 国際文化学部 准教授  
指定討論者 田中 每実氏  
武庫川女子大学 文学部 教授

※分科会はいずれか一つをお申込みいただけます。

大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の先行申込期間には、優先定員を設けます。

◆第8～13分科会  
定員 40名 優先定員 23名

◆第8分科会

## 「教育から学習へ」のパラダイム・チェンジとFD ～<Unlearning>を焦点に～

知識基盤社会は、競争的状况の中で知識やその枠組みが急速に陳腐化し、不断に更新され続けることを大きな特徴とする。高等教育において、<Learner-centered Teaching and Learning>へのパラダイム・チェンジが提案され、多様な<Active Learning>が目ざされ試行されている所以が、ここにある。他方、格差社会の深刻化や縮小社会化を初めとして、解決すべき社会的諸課題が山積する中、課題解決を目指すイノベーションやデザイン思考、CSRの先の<Creating Shared Value>といったテーマが人々の関心を集めている。  
そこで本分科会では、創造的知性を育成する教育活動を開発することこそ今後の高等教育活動における最重要課題であると考え、経営学の組織学習論に出自を持つ<Unlearning>を取り上げる。<Unlearning>がどのように「知性の可動域」を拡大し、「知」それ自体を内発的に自己更新していく創造的学習プロセスであるかについて基本的認識を獲得し、FD活動を含めた今後の高等教育の方向性をそこから逆照射することを試みたい。

コーディネーター  
兼 報告者 景井 充氏  
立命館大学 産業社会学部 教授  
報告者 中村 正氏  
立命館大学 産業社会学部 教授  
杉野 幹人氏  
A.T.カーニー マネージャー

◆第9分科会

## 授業の場における「ことば」の交換 ～対話的コミュニケーションと学生の主体性～

主体的な学びを可能にするのは、授業の場でのことばの交換を基本とした対話的交流であろう。「授業」とは、それぞれの立場において発話者が交替・錯綜する「社会的出来事」である。それを主導するのは、「それでは授業を始めます」「では授業を終わります」という言葉に象徴されるように教員である。教員が発話者である間、学生は自己の内面で「テーマ」との対話を行い、自らの内的な対話世界を開拓している。「テーマ」への学生の学びをより深く、学生が思考や行動の主体性を獲得するには、内的対話の確保、同じ授業を聞く学生同士の対話、教員との直接の対話、すなわち、授業における発話者の交替が重要な鍵になる。本分科会では、対話的交流を意識的に工夫し授業展開している先進事例を紹介し、かつ、その検討を行うことによって、対話的交流への理解を深め、参加者の皆さんにも発話者になってもらいながら、「分科会」という社会的出来事を構成していきたい。

コーディネーター 高橋 伸一氏  
京都精華大学 人文学部 教授  
報告者 田中 岳氏  
九州大学 基幹教育院 准教授  
森 朋子氏  
関西大学 教育推進部 教育開発支援センター 准教授  
渡辺 雄貴氏  
東京工業大学 教育革新センター 准教授  
是澤 範三氏  
京都精華大学 人文学部 准教授

◆第10分科会

## 大学におけるライティングセンターの役割

学生の「書く力」を育成するために行われるライティング支援は、学生の基礎学力の低下や学力格差などを是正するためのリメディアルを提供する支援という枠を超え、初年次教育、キャリア教育など、大学教育全般にかかわる学生の成長に必要不可欠な支援として認識されつつある。近年、名称は様々であるが、学生の「書く力」を育成するライティングセンターを大学として設置する所が増えてきているのは、その表れであろう。そこで、本分科会では、早稲田大学ライティング・センター、愛知淑徳大学ライティングサポートデスク、関西大学ライティングラボの3大学より、センター設置までのプロセスや、設置後の状況、支援内容などについて報告いただき、大学におけるライティングセンターの役割とは何か、「書く力」を育成する支援が大学教育にどのような影響を及ぼすのか、参加者とともに考えてみたい。

コーディネーター 長谷川 岳史氏  
龍谷大学 学修支援・教育開発センター長/  
経営学部 教授  
報告者 佐渡島 紗織氏  
早稲田大学 国際学院 教授  
外山 敦子氏  
愛知淑徳大学 初年次教育部門 准教授  
小林 至道氏  
関西大学 教育推進部 特別任用助教

◆第11分科会

## 障がい学生への大学図書館支援

障がい学生に大学図書館としてどのような支援ができるのか？  
2013年6月に「障害者差別解消法」が制定され、2016年4月1日施行予定である。この法律では「必要かつ合理的な配慮をしなければならない」と定めており、国公立大学を含む行政機関等は法的義務を負い、私立大学を含む事業者は努力義務を負う。  
本分科会では、北海道大学における特別修学支援室と連携した大学図書館の支援報告とDaisyRingsを用いたマルチメディアDAISY資料の製作例を紹介する。そして、国立国会図書館と大学図書館とのデジタル資料の連携構想についても紹介する。  
※マルチメディアDAISY (以下、M-DAISY) は、ATソフトの1つである。国際標準化されたデジタル録音であり、音声にテキスト、画像を同期させることができるのが特徴である。音声発生箇所が自動的にハイライト表示されるため、類似した文字の読みまちがいが、行の読み飛ばしを防げる。M-DAISYは視覚障害のある学生のみならず、LD(学習障害)の学生にも有効である。

コーディネーター 松戸 宏子氏  
佛光大学 教育学部 准教授  
報告者 木田 善章氏  
東芝ソリューション株式会社  
官公ソリューション事業部 事業推進部 参事  
沖田 克夫氏  
佛光大学 非常勤講師/桃山学院大学 兼任講師  
栗田 とも子氏  
北海道大学附属図書館 利用支援課  
安藤 一博氏  
国立国会図書館関西館 図書館協力課  
障害者図書館協力係長

◆第12分科会

## 教職員が直面している大学のいま ～悩みの共有と解決～

本分科会では最近の学生たちの学力不足を、どのように、またどの時期からどの分野で底上げすればいいのか。また、初年次教育だけではなく、就職後の職業人生までを見据えられる力をどのように養うのかを討論する。一部の大学だけの問題かもしれないが、ユニバーサル化した大学における共通のテーマであると考えられる。リメディアル教育やキャリア教育での実践者をお招きし、この問題を登壇者、参加者がお互いに享受する事で、少しでも今後の授業、教務運営の手助けとなり、そして、学生理解を深めることで、学生、教員双方のキャンパスライフを豊かなものにする事を目的とする。

コーディネーター 吉野 啓子氏  
京都ノートルダム女子大学 人間文化学部 教授  
報告者 居神 浩氏  
神戸国際大学 経済学部 教授  
工藤 俊郎氏  
大阪体育大学 体育学部 教授  
齋北 貴史氏  
高崎経済大学 経済学部 講師

◆第13分科会

## 学外特設キャンパスでの学び ～地域連携と教育効果～

大学教育におけるアクティブラーニングの重要性が叫ばれる今、学外に設置した特設キャンパスを拠点とする活動が、全国各地で試みられている。学生はそこで地域とふれあい、課題を発見しつつ解決にとりくむPBL(課題解決学習)を体験できる。また地域も、学生がもたらす活気や新しい試みを刺激とし、活性化が可能となる。特に、地域には町家や古民家など独自の多彩な伝統的建造物があり、それを利活用した特設キャンパスは、伝統の継承という意味で教育的効果も地域活性化効果も高い。ただ一方では、学外特設キャンパスの利活用方法に行き詰り、活動を縮小するケースも起きている。学外特設キャンパスにはどのような難しさがあるのか。どうすればそれを突破して、学生と地域の双方がよりよい実りを得ることができるのか。現在活発に活動中の三つの町家キャンパスの関係者に登壇頂き、大学生自身の声も交えつつ、町家活用PBLの事例と将来性について考えたい。

コーディネーター 山本 淳子氏  
京都学園大学 人文学部 教授  
報告者 井上 芳恵氏  
龍谷大学 政策学部 准教授  
小島 富江氏  
NPO法人京町家再生研究会 理事長  
松島 三兒氏  
長浜バイオ大学 バイオサイエンス学部 教授

情報交換会

12号館リブル

1日目 2016年3月5日(土) 17:30～19:00

ポスターセッション

1号館

2日目 2016年3月6日(日) 10:00～15:30 (コアタイム) 12:00～13:30

ポスターセッションでは、大学コンソーシアム京都加盟校の教職員・学生が実施する特徴的な取り組みを発表します。新たな情報収集や、参加者間の交流の場としてご活用ください。

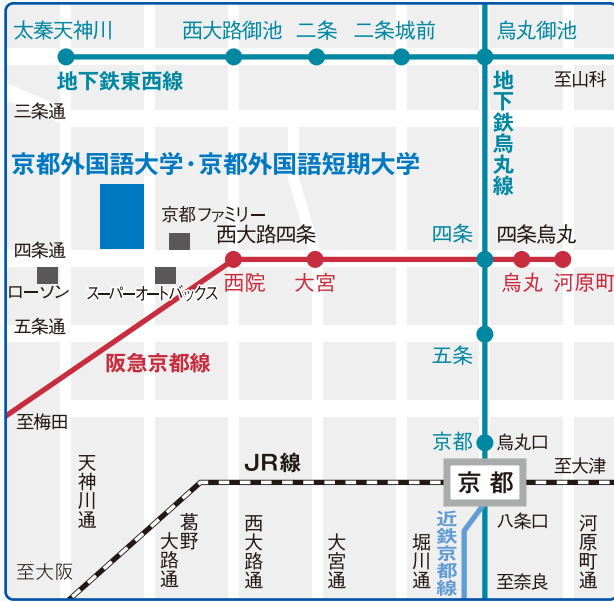
企業ブース

1号館

2日目 2016年3月6日(日) 10:00～15:30

企業ブースでは、大学教育に関連のある企業が出展いたします。

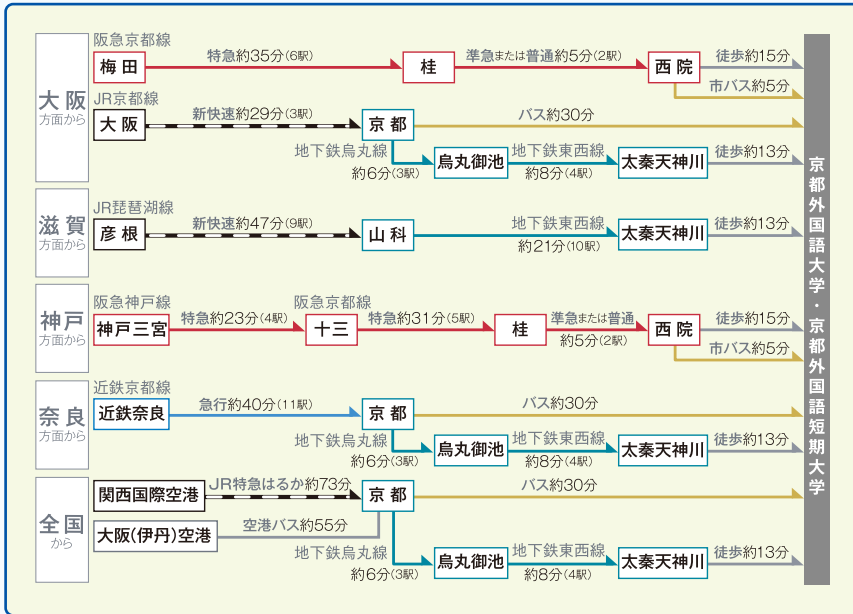
## ●会場へのアクセスマップ



## ●キャンパスマップ



## ●京都外国語大学へのアクセス



- 阪急京都線利用の場合は、「西院」駅から西へ徒歩約15分。  
または市バス「西大路四条」(西院)から3・8・28・29・67・69・71系統に乗車、「京都外大前」で下車。(所要乗車時間約5分)  
「梅田」駅から「西院」駅までは約40分。
- JR線利用の場合は、「京都」駅烏丸口から市バス28系統、八条口から市バス71系統に乗車、「京都外大前」で下車。(ともに所要乗車時間約30分)  
※3月5日のみ烏丸口から「京都外大前」まで臨時バス運行予定
- 地下鉄烏丸線利用の場合は、「四条」駅で下車、市バス「四条烏丸」から3・8・29系統に乗車、「京都外大前」で下車。(所要乗車時間約15分)
- 地下鉄東西線利用の場合は、「太秦天神川」駅から南へ徒歩約13分。

※ご注意:学内には駐車場がございませんので、ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

## 宿泊施設の予約について

会場となる京都外国語大学にアクセスの良い宿泊先を宿泊施設予約サイトでご案内しております。大学コンソーシアム京都公式ホームページにある「第21回FDフォーラム」のご案内ページにリンクを設けておりますので、そちらからアクセスしてお申し込みください。

※宿泊施設予約は、外部のサービスを利用しております。このサービスを利用してトラブルや損害等が発生しましても、大学コンソーシアム京都では一切の責任を負いませんので、予めご了承ください。

## ●お問合せ先



公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
The Consortium of Universities in Kyoto

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下るキャンパスプラザ京都内  
教育開発事業部 FDフォーラム事務局  
TEL:075-353-9163 (火~土 9:00~17:00)  
FAX:075-353-9101 E-mail:fd@consortium.or.jp

● **申込方法 (Web申込のみ)** ※当日申込の受付は行っておりませんのでご注意ください。

**STEP 1**

**お申込み (先着順)**

申込み手続き完了後は、参加分科会の変更はできませんのでご注意ください。

- 1 下記のURLから「メールアドレス確認フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力・送信してください。
- 2 送信いただいたメールアドレス宛に「参加申込フォーム」のURLをお送りします。
- 3 記載のURLにアクセスし、画面の指示に従って申込み手続きを行ってください。

※「参加申込フォーム」URL通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力の可能性がございます。その場合は、お手数ですが、「メールアドレス確認フォーム」にメールアドレスを再入力・再送信してください。

**STEP 2**

**参加費のお支払**

申込み手続きが完了した方へは、後日、払込票をお送りいたします。最寄りのコンビニエンスストアで参加費をお支払いください。払込票の取り扱い可能なコンビニエンスストアは送付している払込票の裏面に記載しております。銀行などの金融機関ではお支払いできませんのでご注意ください。

**【参加費支払締切: 2016年2月9日(火)】**

※お申込み手続き及び、参加費のお支払が完了していない方はご参加いただけませんのでご注意ください。  
 ※お支払いいただく参加費につきましては、印刷費、Webシステム運営費、通信費等諸準備に使用いたします。いかなる理由があっても返金には応じられません。予めご了承ください。参加費をお支払いいただいたのち、やむを得ずご欠席された方につきましては、後日、FDフォーラム報告集を送付いたします。

**STEP 3**

**参加証(メール)の受領**

参加費の支払いが完了した方には参加証をメールにて送信します。  
 2月20日(土)までに参加証(メール)が届かない場合は、FDフォーラム事務局までお問い合わせください。

**STEP 4**

**当日 参加証(メール)持参**

当日はプリントアウトした参加証(メール)を持参して、受付にて提示してください。※代理の方が参加される場合は当日の受付にてお申し出ください。

● **参加費用**

所属	区分	シンポジウム・分科会	情報交換会	シンポジウム・分科会 + 情報交換会
加盟 大学・短期大学	教職員	3,000円	3,000円	6,000円
	学生(大学院生含)	無料	2,000円	2,000円
非加盟 大学・短期大学 その他団体・企業等	教職員 一般	5,000円	3,000円	8,000円
	学生(大学院生含)	1,000円	2,000円	3,000円

● **申込期間 2016年1月5日(火)～1月28日(木)** 【参加費支払締切: 2016年2月9日(火)】

**加盟大学・短期大学 先行申込期間 2015年12月18日(金)～12月25日(金)**

先行申込期間終了後も1月28日(木)まではお申込みいただけます。

※大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の教職員・学生の方を対象に、先行申込期間を設けています。加盟校以外の方は1月5日以降のお申込みとなります。なお、先行申込期間中は、優先定員までの受付となります。

● **URL <http://www.consortium.or.jp/project/fd/forum>** もしくは

検索 

**第21回FDフォーラム企画検討委員会** ★…委員長 ☆…副委員長

- |  |                                    |
|--|------------------------------------|
| ★村上 正行 京都外国語大学・京都外国語短期大学<br>マルチメディア教育研究センター 教授 | 佐藤 賢一 京都産業大学 総合生命科学部 教授            |
| ☆児玉 英明 京都三大学教養教育研究・推進機構<br>教育IRセンター 特任准教授      | 澤 達大 京都文教大学 総合社会学部 准教授             |
| 井上 尚実 大谷大学 文学部 准教授                             | 高橋 伸一 京都精華大学 人文学部 教授               |
| 景井 充 立命館大学 産業社会学部 教授                           | 長谷川 岳史 龍谷大学 学修支援・教育開発センター長/経営学部 教授 |
| 河原 宣子 京都橘大学 看護学部 教授                            | 松戸 宏予 佛教大学 教育学部 准教授                |
| 古賀 松香 京都教育大学 教育学部 准教授                          | 山田 剛史 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授      |
| 坂本 尚志 京都薬科大学 一般教育分野 准教授                        | 山本 淳子 京都学園大学 人文学部 教授               |
|  | 吉野 啓子 京都ノートルダム女子大学 人間文化学部 教授       |